



大型連休目前の頃、昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校のある街、三軒茶屋を歩きました。地下の東急田園都市線三軒茶屋駅を出て地上へ抜けるとすぐ、上に首都高速、下に国道246号、世田谷通りと、幹線道路の“洗礼”。ところが、脇道に入ると驚くほどに表情が変わります。間口は小さくてもエッジの利いたお店から、昭和レトロなお店まで渾然一体となって、「住みたい街ランキング」にも顔を出す、魅力むき出しの街。歩くほどに楽しくなって、歩いた距離は（道に迷ったのも含め）約5kmに。「スイーツときどきパン」改め、「パンときどきスイーツ」か、はたまた「パンとスイーツどこまでも」？

おいしい笑顔は無期限保存可能です

個性的なパン屋さんが、おいしい競演

こんなにパン屋さんが集まっているのに、いずれ劣らぬ人気ぶり。酵母、水、小麦粉、バターなど原材料へのこだわりや保存料不使用など、個性的なお店が多いので、この街の皆さんもそれぞれに「推し」があるようです。

昭和女子大学附属昭和こども園のみんなにも人気というペンギンパン（IPPIN 参照）目指して入った「ばんやのパンダワン」。さすが地元で100年以上続くというパン屋さんだけあって、センターではないけれどシベリア（あんこを挟んだパン）が存在感を放っています。食堂が作ったパン屋さんが「ミカツキ堂」。あんパンは重い！たい焼きで有名な「目黒ひいらぎ」の餡がた——っぷりなのです。茶沢通りで向かい合う「Truffle BAKERY（トリュフベーカリー）」と「boulangerie Bonheur（ブランジェリーボヌール）」。「Truffle BAKERY」で人気の白トリュフの塩パンには「おひとりさま3個まで」の、切実なお願いの張り紙が。「boulangerie Bonheur」はハード系も惣菜パンも豊富で、子どもも大人も惹きつけます。栄通り商店街にもありますが、都内にも店舗多数。茶沢通りを下北沢方向にもう少し歩くと、レトロな雑貨に囲まれた「nukumuku breadstore（ヌクムク）」。中高生に人気です。

作り手の愛を感じるスイーツ

「パンダワン」のある一角には、パンケーキカフェ「VoiVoi（ヴォイヴォイ）」、スイートポテト専門店

「OIMO（オイモ）」もあります。スイートポテトは、その種類の多さも季節限定もオイモ好きなら通ってしまいそう。記念日のホールケーキも人気というのは「SUSUCRIER^{※1}（シュシュクリエ）」。カットケーキもどれもこれもおいしそうで、ひとつに決めきれず順番を譲ってくれたあなた、わかります。

本当の“モチモチ感”に出会うとホッとするのは、お餅お団子文化のDNAでしょうか。「伊勢屋」の柏餅に、鯉のぼりの季節に来られて良かったなと心底思いました。いちご好きにたまらないのは、「いちびこ」。マスコットの鳥獣戯画風うさぎが背負っているのは、もちろんいちご。ケーキもソースも、いちごだらけ。

りんごだらけなのはアップルパイ専門店「GRANNY SMITH（グラニースミス）」。りんごが旬の季節には、三軒茶屋限定タルトタタンがお目見えします。住宅街の道を世田谷観音方向へ進むと「やきがしや SUSUCRE^{※2}（シュシュクル）」。こじんまりした店内のしつらえは、まるで絵本のページをめくるように、混ぜる、こねる、伸ばす、焼く・・・を想像させてくれます。

※1 砂糖入れを意味するフランス語の「SUCRIER」とアトリエを組み合わせた造語で「甘い工場やお菓子の家」の意味（参考：EPARK）
 ※2 フランス語で「おさとう」や「あまい」を意味する「SUDRE」をかわいらしく（同店サイト）

昭和女子大学附属昭和中高を起点に東西南北、どの方向にも“おいしい”が、い〜っぱい。今回の心残りは、世田谷公園近くの「和 kitchen かな」。定食のほか、かき氷がソースも氷もとてもおいしいと昭和女子大学広報部推薦。暑い季節、早く来ーい。

IPPIN 三軒茶屋のイッピン

「ばんやのパンダワン」のペンギンパン

「ばんやのパンダワン」は、以前は「精養堂」という名前で営業していました。昭和女子大学附属昭和で、中高生の昼食のパンも販売しており、当時の注文表には何と50種類もあって、軽食休み（ブレイクタイム）に注文していたそうです。卒業生には、そのやりとりも懐かしい思い出。「安価でボリュームもあったので、2つ食べればおなか一杯。300円も購入すればもう十分でした」というのはある男性職員の、若き日の思い出。

ペンギンパンはクリームパン。ほんのり苺色の赤いペンギンはチョコレートクリーム。



三軒茶屋編

昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校のある街